

的な活動の積み重ねと訪れる人たちとの共感が、駅を取り巻く空間の豊かさを共創しています。まさしくシビックプライドが、駅にかかわる人々と訪れる人たちとの間で生まれてきているのです。次世代のまちづくりを彷彿させるものだと思います。



伊予市双海町下灘駅の様子

これらの事例のように、第三世代のまちづくりは、課題解決というフォアキャスティング的な取組みではなく、もっと自由に幸福をもたらすバックキャスティング的な取組みがいいのではないかと思います。地域おこし協力隊が地域に入るときに、フリーミッションタイプとミッションタイプがあるといわれていますが、フリーミッション型の取組みが、小規模であっても多様に数多く起きているようなまちづくりがこれからの主流になるのではないかと。新型コロナウイルスへの対応が、ゼロコロナを目指したものでなく、ウィズコロナといったように、課題解決に直に向かい合うのではなく、その課題と付き合いながら生活していくようなものでないかと思っています。言い換えれば、それぞれが自分の幸福にこだわって、周りの人たちを巻き込んでやりたいことをやる。それが集積すると、自分たちが目指した暮らしぶりが実現するとともに、結果的に課題解決につながるまちづくりになるのではないかと。

このまちづくりの考え方は、第一世代のビジョン型まちづくりに近いものがあります。その違いは、誰かが提唱したビジョンに賛同して、一つの

目標に向かって進めていくまちづくりではなく、たくさんの人たちの小さな思いを、たくさんの人たちが連携しながら共創していくまちづくりです。課題解決よりも価値創造型のまちづくりになるのではないかと。そこには、多様に生きている人がいて、過去の事例を参考にしたまちづくりではなく、たくさんの方が目標が重なり合って行われる価値共創型のまちづくりになると思われます。

【参考文献】

- えひめ舞たうんVOL50（平成8年、(財)愛媛県まちづくり総合センター）
- 地域づくり活動のススメ（平成10年、(財)愛媛県まちづくり総合センター）
- 地域づくり活度のススメ2001（平成13年、(財)えひめ地域政策研究センター）
- えひめの地域づくりグループハンドブック（平成13年、(財)えひめ地域政策研究センター）
- えひめの地域づくり人100人（平成15年、(財)えひめ地域政策研究センター）
- 漁師はなぜ、海を向いて住むのか？（地井昭夫、平成24年、工作舎）

Profile 前田 眞（まえだ まこと）

八幡浜市生まれ。昭和52年3月広島工業大学工学部建築学科卒。平成27年1月から愛媛大学社会連携推進機構にて地域連携コーディネーターに就任。地域課題の解決に向けた活動に取り組んでいる。

地域づくり人養成講座（えひめ地域政策研究センター）の講師、愛媛県研修所の講師、西予市まちづくりアドバイザー、松山市コミュニティアドバイザーに就任するほか、まちづくり学校双海人、小松町立志隊のアドバイザーや八幡浜みなと交流館や宇和島NPOセンター、西条まちづくり応援団等の数多くのまちづくり中間支援組織の設立、運営に参画。